

## 平成21年度第5回 産業応用部門論文委員会主査会議議事録（案）

1. 日時 平成21年12月15日（火） 13：30－15：30
2. 場所 自動車会館2階小会議室
3. 出席者(敬称略)  
大石（編修長，長岡技術科学大学）、村上（編修長補佐，慶応大学）、五十嵐（D1主査，富士電機）、藤崎（D1副主査，新日鐵）、織田（D2主査，パナソニック）、寺田（D2副主査，徳島大学）、松岡（D3主査，東芝）、高瀬（D3副主査，摂南大学）、山崎（ゲストエディタ，千葉工大）、船渡（ゲスト，宇都宮大）
4. 提出資料
  - 21-5-0 議題票（藤崎）
  - 21-5-1 前回議事録（案）（藤崎）
  - 21-5-2-1 「半導体電力変換研究会」特集論文の起案書、募集（村上）
  - 21-5-2-2 「モーションコントロール、計測・センサ応用全般」特集論文の起案書、募集（村上）
  - 21-5-2-3 「回転機技術」特集論文の起案書（山崎）
  - 21-5-3 電子査読システムの運用状況（村上）
  - 21-5-4-1 「モーションコントロール、計測・センサ応用全般」特集論文の実施報告（村上）
  - 21-5-4-2 「回転機技術」特集論文の実施報告（山崎）
  - 21-5-4-3 共通英文論文誌「Energy Saving Technologies on Electric Railways in Japan」特集論文の実施報告（村上）
  - 21-5-5 電子投稿・査読システム改善検討WG報告（村上）
  - 21-5-6-1 論文委員候補者推薦（村上）
  - 21-5-6-2 論文委員候補者推薦（村上）
  - 21-5-7 担当論文一覧（五十嵐）
5. 議事
  - 5.1 前回議事録の確認（資料21-5-1）
    - ・ 議事録については、特に問題なく、承認された。
  - 5.2 新規特集号について（資料21-5-2-1，2，3）
    - ・ 以下の新規特集号について報告があり、未了承案件については特集号として了承された。
      - ・ 「半導体電力変換研究会」（2011年1月号発刊予定、了承済）
      - ・ 「モーションコントロール、計測・センサ応用全般」（2011年3月号発刊予定。今回事承）
      - ・ 「回転機技術」（2011年11月号発刊予定。今回事承）
  - 5.3 電子査読システム運用状況について（資料21-5-3）
    - ・ 電子査読システム運用状況について報告があった。和文誌については、D1, D2, D3ともに昨年より多い投稿数であった。

#### 5.4 特集号状況確認（資料 21-5-4-1, 2, 3）

- 以下の特集号について進捗報告があり、全般的に順調に推移していた。
  - 「モーションコントロール、計測・センサ応用全般」（2010年3月号発刊予定）については順調に推移している。
  - 共通英文論文誌「Energy Saving Technologies on Electric Railways in Japan」（2010年5月号発刊予定）についてはほぼ順調に推移している。
  - 「回転機技術」（2010年11月号発刊予定）については、掲載論文数10件で、順調に推移している。

#### 5.5 電子投稿・査読システム改善検討WG報告について（資料 21-5-5）

- 全部門での ID, DB 統合の意向により、システムの改善を行うべくシステム会社三社で検討を行ってきたが、現行のアセナジー社に依頼する、との報告があった。
- 2011年4月立ち上げを目途に現在進行している。

#### 5.6 論文委員の承認について（資料 21-5-6-1, 2）

- D1 から10名、D2 から2名、の論文委員の候補者が紹介された。
- このうち2名の方については、再検討して頂くことになり、修正後メール審議を行うことになった。
- その他の候補者については承認された。
- これに伴い、論文委員の推薦の仕方について話し合いがあった。その結果、候補者の状況をよく知っている推薦人より用紙作成の要請を行うことになった。

#### 5.7 論文査読における追加査読について（資料 21-5-7）

- 論文査読における追加査読について、具体的事例について議論を行った。
- 追加査読の場合、それまでに経緯をすべて認識していただく必要があるため、システム上は「R」として一旦主査に戻し、改めて追加査読を行う、との説明があった。
- 本内容の幹事団への周知徹底のために、追加査読についてのメールを編修長補佐より関係者に送付することになった。

#### 5.8 2回目査読の二名査読システムについて

- 2回目査読における二名査読システムについて議論を行った。
- その結果、査読者の意識向上のために、A, D 判定以外については、原則として2回目以降の査読においても二名で行うことになった。

#### 5.9 その他関連・連絡事項

- 論文賞について：D 部門で論文賞を設立する方向の検討が進んでいる、との報告があった。

#### 6. 次回開催予定

- 日時：平成22年2月2日（火）13:30から15:00

以上